

2016年（平成28年）

4月22日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

4/7~4/13のNYMEX・WTIは、4ヵ国による原油市況対策の会合への期待から、37~42ドルで高めに推移した。

4月14日は、17日の産油国会議に向けての神経質な動きが続き、続落した。5月限の終値は、前日比0.26ドル安の41.50ドルとなった。

週末15日は、17日の会議にイランは出席しないとのイランからの報道により会議の行方に懐疑的な見方が広がり、続落した。5月限の終値は、前日比1.14ドル安の40.36ドルで終了した。

週明け18日は、17日の産油国による会合が増産凍結の合意形成に失敗したこと、4営業日続落した。会議終了後は、供給過剰の解消に向けた具体策が示されないことへの失望から、一時は37ドル台を記録したが、その後はクウェートでの石油労働者のストライキなどの報から下げ幅を縮小した。5月限の終値は、前日比0.58ドル安の39.78ドルと6営業日振りに40ドル台を割り込んだ。

19日は、クウェートの石油労働者が無期限ストに突入り、原油生産が3月の5割強に減少したとの報道から値上がりした。5月限の終値は、前日比1.30ドル高の41.08ドルだった。

20日は、EIA(米エネルギー情報局)の石油統計で、原油在庫は市場予想を下回る増加となったため続伸した。さらに暖房油在庫が増加の予想に反して減少したこともこの流れを後押しした。5月限の終値は、前日比1.55ドル高の42.63ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(6月渡し)は、前週は欧米市場に呼応して値上がりし36~40ドルで推移した。14日は39.70ドル、15日は40.00ドル、週明け18

日は37.40ドル、19日は39.40ドルと反発、20日は39.20ドルだった。

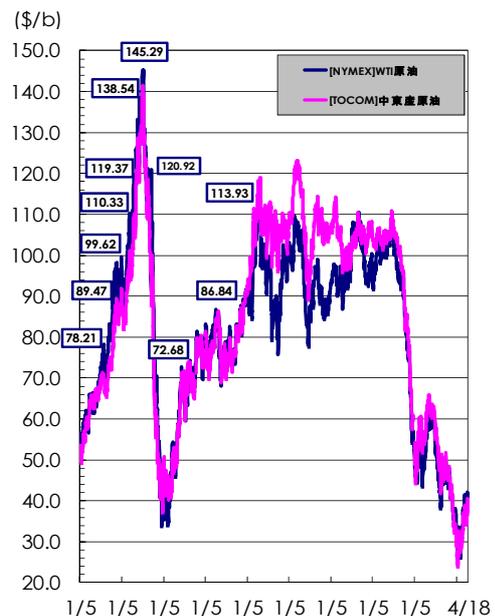
為替は、前週は108~109円台でさらに円高が進んだ。14日は109.41円、15日は109.74円、週明け18日は108.01円、19日は109.12円で円安が進行した。20日は109.20円。

財務省が20日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、3月下旬の原油輸入平均CIF価格は、23,545円/klとなり、前旬を1,196円上回った。ドル建てでは33.10ドルで前旬比1.73ドル高。為替レートは1ドル/113.09円。また同日発表した貿易統計速報(月間ベース)によると、3月の原油輸入平均CIF価格は、22,779円/klとなり、前月を351円上回った。ドル建てでは32.01ドルで前月比1.65ドル高。為替レートは1ドル/113.14円。

主要元売会社の4月第4週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから2.0円の値上げだった。原油は値上がりし、為替の円高でやや相殺されたものの、原油コストは値上がりした。

そのような中で、4月18日時点の小売価格は、ガソリンが0.3円値上がりの116.6円、軽油は0.2円値上がりの99.4円、灯油は0.1円値上がりの61.9円となった。ガソリンは6週連続の値上がり、軽油は5週連続の値上がり、灯油は3週連続の値上がり。この週の原油コストは値下がりだったが、元売りの卸価格は据え置きで、前々週までの卸値上がりの影響もあり、33都府県で値上がり、5県で横ばい、9道県で値下がりした。

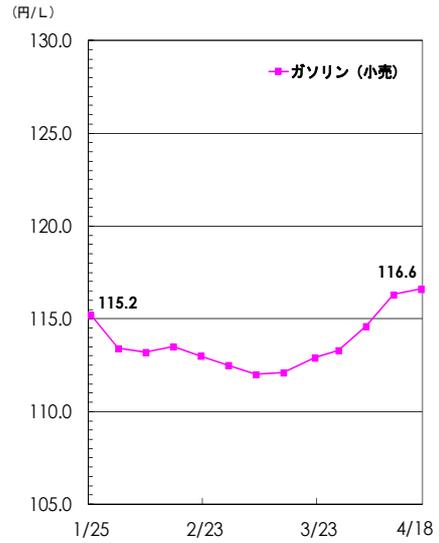
原油		今週	前週比	前年比	
需給	原油処理量 (千kl)	4/10 ~ 4/16	3,703	▼ -33	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	87.2	▼ -0.8	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	4/16	15,088	▲ 286	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	4/18	37.42	▼ -0.66	▼ -24.4
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	4/18	39.78	▼ -0.58	▼ -16.6
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	3月下旬	33.10	▲ 1.73	▼ -21.68
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	23,545	▲ 1,196	▼ -17,743
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.09	▲ 0.16	▲ 6.74
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/18	109.01	▲ 0.10	▲ 10.93



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/10 ~ 4/16	1,035 ▲ 40	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	888 ▲ 56	▼ -	
	輸出	"	55 ▼ -38	▼ -	
	在庫	4/16	1,845 ▲ 92	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/12 ~ 4/18	39.2 ▼ -0.2	▼ -17.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/12 ~ 4/18	41.0 ▲ 1.4	▼ -19.5
		(TOCOM/中部)	4/18	38.5 ▼ -0.7	▼ -22.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/18	116.6 ▲ 0.3	▼ -22.2	

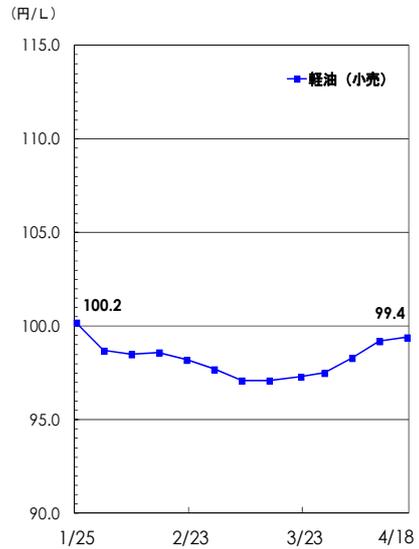
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

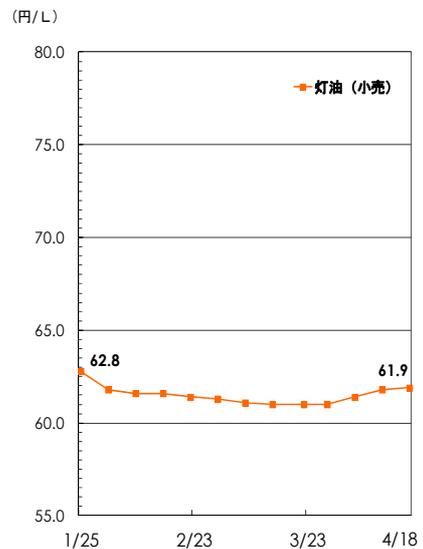
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/10 ~ 4/16	803 ▲ 94	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	584 ▲ 66	▼ -	
	輸出	"	160 ▲ 49	▲ -	
	在庫	4/16	1,461 ▲ 59	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/12 ~ 4/18	36.6 ▼ -0.8	▼ -16.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/12 ~ 4/18	34.8 ▲ 1.3	▼ -22.7
		(TOCOM/中部)	4/18	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/18	99.4 ▲ 0.2	▼ -19.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/10 ~ 4/16	217 ▼ -48	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	223 ▼ -13	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	4/16	1,167 ▼ -6	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/12 ~ 4/18	35.0 ▼ -0.7	▼ -18.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/12 ~ 4/18	34.7 ▲ 1.2	▼ -22.1
		(TOCOM/中部)	4/18	32.3 ▼ -2.2	▼ -24.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/18	61.9 ▲ 0.1	▼ -21.9	



■ 関連情報

1 海外/原油

20日のNYMEX市場のWTI原油は、EIAの週間石油統計で、原油在庫が市場の予想以上ほどは増加しなかったことから、値上がりした。

EIAが発表した週間石油統計は、原油在庫が事前予想(240万バレル増)を下回る、210万バレル増となったことから続伸した。これに加え暖房油在庫が、市場予想の小幅増を覆して360万バレルの減少となったことから暖房油が値上がり、米国の産油量の6週連続の減少もあって値上がりに拍車がかかった。

この日で納会となる5月限の終値は、前日比1.55ドル高の1バレル42.63ドル、6月限の終値は、前日比1.71ドル高の1バレル44.18ドルだった。

EIAによると、4月18日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比6.8セント値上がりの1ガロン2.137ドル(61.5円/ℓ)となった。ディーゼルは3.7セント値上がりの2.165ドル(62.3円/ℓ)。ガソリンは2週振りの値上がり、ディーゼルは2週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、4月10日～4月16日に休止したトッパー能力は、22.0万バレル/日と先週から4.5万バレル/日の減少。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は370.3万kl、前週に比べ3.3万kl減。前年に対しては4.9万klの減少。トッパー稼働率は87.2と前週に対しては0.8ポイントの減少、前年に対しては1.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油のみが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/4.0%増、ジェット/29.7%増、灯油/18.1%減、軽油/13.3%増、A重油/9.5%増、C重油/9.7%増。今週のC重油の輸入は10.2万kl(前週比9.7万kl増)。軽油の輸出は16.0万kl(前週比4.9万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではジェット、灯油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではA重油のみが増加し、その他すべての油種で減少した。前週に続き47都道府県で小売価格が値上がりするなどの影響もあり、ガソリンで88.8万kl(対前週6.7%増)と2週連続で100万kl台を切り、前年割れとなった。

ジェット8.4万kl(対前週48.5%減)、灯油22.3万kl(対前週5.6%減)、軽油58.4万kl(対前週12.7%増)、A重油24.3万kl(対前週9.7%増)、C重油29.4万kl(対前週6.3%増)。

(単位:千KL)

	今週 (4/10 ~ 4/16)	前週 (4/3 ~ 4/9)	前週比	
ガソリン	888	832	▲ 56	(7%)
ジェット燃料	84	163	▼ -79	(-48%)
灯油	223	236	▼ -13	(-6%)
軽油	584	518	▲ 66	(13%)
A重油	243	221	▲ 22	(10%)
C重油	294	277	▲ 17	(6%)
合計	2,316	2,247	▲ 69	(3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月16日時点の在庫は灯油が取り崩し、その他の油種で積み増しとなり、前年に対してはガソリン、A重油、C重油が積み増し、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは184.5万kl、前週差9.2万kl増。前年に対しては12.5万kl多い。

灯油は116.7万kl、前週差0.6万kl減。前年に対しては7.0万kl少ない。

軽油は146.1万kl、前週差5.9万kl増。前年に対しては16.7万kl少ない。

A重油は76.8kl、前週差0.7万kl増。前年に対しては0.6万kl多い。

C重油は205.6万kl、前週差10.3万kl増。前年に対しては0.4万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (4/16)	前週 (4/9)	前週比	
ガソリン	1,845	1,753	▲ 92	(5%)
ジェット燃料	966	883	▲ 83	(9%)
灯油	1,167	1,173	▼ -6	(-1%)
軽油	1,461	1,402	▲ 59	(4%)
A重油	768	761	▲ 7	(1%)
C重油	2,056	1,953	▲ 103	(5%)
合計	8,263	7,925	▲ 338	(4.3%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月12日から4月18日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは円高で一部相殺したが、原油コストは値上りと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン92~93円台、軽油36~37円台、灯油34~35円台でほぼ横ばいだった。海上スポット価格は、ガソリン93~94円台、軽油37~38円台、灯油32~34円台で、横ばいからやや値上がりである。また、先物価格はガソリン93~95円台、軽油33~35円台、灯油33~35円台で堅調だった。原油価格値上がりの影響が製品スポット市場にも波及し、先物を中心に堅調だった。

EMGマーケティングは21日、23日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、全油種1.0円引き上げる旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、原油コストの値上がりの影響を受け、先物から堅調に転じた。週間のガソリン販売量は、卸価格値上がりの反動で前週に続き80万kl台だった。

4月第4週(4月21日~4月27日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(4月12日~4月18日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.2円、軽油も0.8円、灯油は0.7円の値下がり、東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.2円、灯油は1.0円の値上がり、軽油は0.2円の値下がりだった。また先物価格は、ガソリンが1.4円、灯油が1.2円、軽油が1.3円の値上がりだった。原油コストは値上がり、スポット製品価格は先物から海上物が堅調に転じつつある。

4月第4週の大手元売の卸価格は、横ばいから2.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (4/12 ~ 4/18)	前週 (4/5 ~ 4/11)	前週比
スポット価格	レギュラー	39.2	39.4	▼ -0.2
	灯油	35.0	35.7	▼ -0.7
	軽油	36.6	37.4	▼ -0.8

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (4/12 ~ 4/18)	前週 (4/5 ~ 4/11)	前週比
先物価格	レギュラー	41.0	39.6	▲ 1.4
	灯油	34.7	33.5	▲ 1.2
	軽油	34.8	33.5	▲ 1.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (4/12~4/18実績値)		(単位: 円/ℓ)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.2	▲ 1.4	▲ 0.6
灯油	▼ -0.7	▲ 1.2	▲ 0.3
軽油	▼ -0.8	▲ 1.3	▲ 0.2
A重油	▼ -0.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バーージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

4月18日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円値上がりの116.6円、軽油は0.2円値上がりの99.4円、灯油は0.1円値上がりの61.9円だった。ガソリンは6週連続の値上がり、軽油は5週連続の値上がり、灯油は3週連続の値上がり。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは33都府県、横ばい5県、値下がり9道県だった。沖縄県を除く都道府県別のガソリンの全国最安値は、高知県(前週比2.4円高)の109.7円で、埼玉県(同0.1円高)が112.5円で続いている。最高値は鹿児島県(同横ばい)の124.7円だった。都道府県別

で最も値上がりしたのは大阪府(同2.7円高)で115.5円、最も値下がりしたのは神奈川県(同1.0円安)の114.8円だった。

原油コストは値上がり、卸価格も値上がりだった。製品スポット市況も堅調に転じつつある。次週の小売価格は、値上がりで見られる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)			
		今週 (4/18)	前週 (4/11)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	116.6	116.3	▲ 0.3	08/8/4 185.1
	灯油	61.9	61.8	▲ 0.1	08/8/11 132.1
	軽油	99.4	99.2	▲ 0.2	08/8/4 167.4

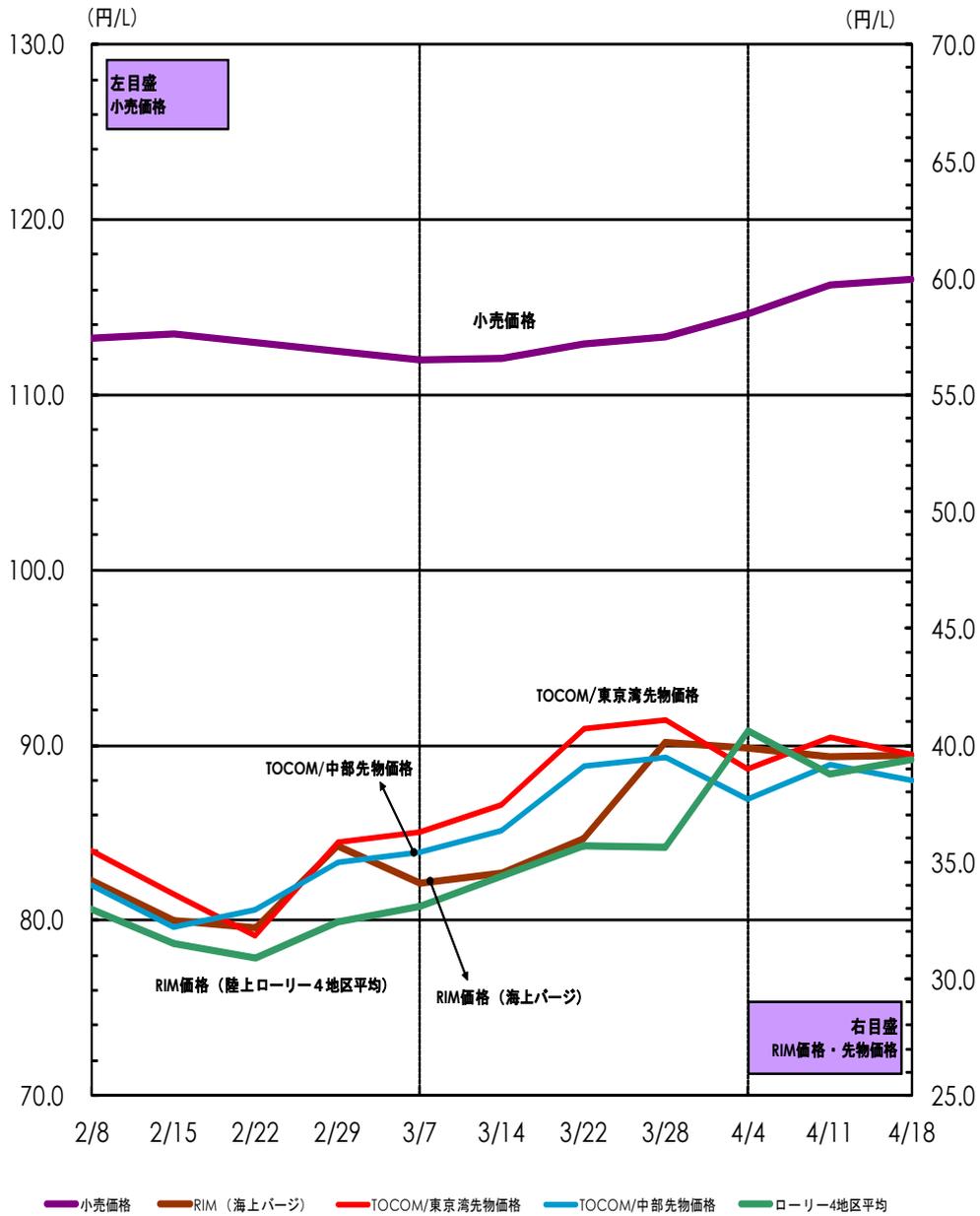
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/2/8 ~ 2016/4/18)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第5号)の公表は、5/2(月)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成27年9月末現在)は、12月16日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。